

# 中学3年4組 音楽科学習指導案

指導者 小村 聡

歌詞の意味を探り、その意味やメロディ（音）から感じるものを言葉で伝え合いながら音楽表現を工夫していく活動は、歌唱表現を高めていくことに有効であったか。

## 1 題材名 思いや意図を音楽表現につなげよう ～カンツォーネ～

### 2 授業の構想

(1) 本校の行事の中でとりわけ校内音楽会は、形だけでなく内容の質の高さを伝統としている。今年も先日開催したが、各学級とも立派な合唱演奏を披露した。本校の生徒たちは、毎年この校内音楽会に対する関心と意欲がとても高く、上学年の歌声にあこがれと理想を抱いて取り組んでいる。また、日頃の昼休みや部活動時にコーラス部の歌声を耳にする機会が多く、合唱における発声（音色）のイメージを多くの生徒たちがもっている。しかし、曲想を感じ取って、楽曲にふさわしい、あるいは自分の思いや意図をもって歌唱表現へと結びつけていく力のある生徒はまだまだ少ない。

本学級は、学習に対して前向きに取り組もうとする生徒が多く、発言も多い。歌唱活動では、積極的にのびのびと声を出そうとする生徒が多く、校内音楽会では、3年生課題曲の混声四部合唱「大地讃頌」に加えて、自由曲は、かつてのNHK全国学校音楽コンクール高等学校の部の課題曲であった混声四部合唱「言葉にすれば」に果敢に挑戦した。初めてのパート練習では、リズムと音の難しさから半ば諦めようとする雰囲気もあったが、パートリーダーを中心に支え合い、励まし合う雰囲気で活動を重ねていった。音程が取れはじめ、楽曲全体の流れを感じはじめると、特に男子生徒は、リズムを体全体でとらえ、体を動かしながら歌っている姿が見られるようになった。このように音楽科が求める「豊かな学びの姿」の多くをとらえることができた。しかし、歌詞の内容や曲想を味わって、楽曲にふさわしい歌唱表現を工夫する力はまだまだ弱く、音楽科が求める「豊かな学びの姿」のうちの「よりよい音楽表現をするために工夫しようとする姿」を育成すべく本題材の授業を構想した。

(2) 本題材は、カンツォーネ（イタリア民謡）の歌詞・メロディともに感情表現豊かな特徴を感じ取り、その歌詞の意味やメロディ（音）そのものから感じるものをグループや学級全体で伝え合いながら音楽表現を工夫させることをねらいとしている。

本題材は、新学習指導要領のA表現（1）ア「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。」に関連している。

学級全体での学び合いを活性化させ、思考力・判断力・表現力がより高められるように共通の課題設定をする。共通の課題として、「音楽を形づくっている要素」から「強弱」とメロディ（音）そのものから感じ取る「ニュアンス」の2点に焦点をあてる。教材は、カンツォーネ（イタリア民謡）から『O sole mio』（カップロ作詞／ディ・カープア、マズヅッキ作曲）を原詩（ナポリ語）で扱う。カンツォーネについては、第2学年時に『Santa Lucia（サンタルチア）』（ナポリ民謡）、第3学年時に『Torna Surriento（帰れソレントへ）』（G.B.デ・クルティス作詞／E.デ・クルティス作曲）を教材として触れている。カンツォーネの発声法は、生徒が普段行っている合唱活動で用いる発声に近いので、声の出し方がとらえやすく、また、普段ナポリ語の楽曲に触れることも少ないので、生徒の個人的な音楽経験に過度に左右されることがなく学び合いが行えると考えた。

『O sole mio』とは日本語で『私の太陽』と訳され、その歌詞は「太陽の輝きはすばらしい。しかし、太陽よりも一層美しく輝かしいのは君！」と愛する人を想う気持ちをストレートに表現している。前半は流れるようなメロディで太陽の輝きを賞賛し、後半は音域も高くなり、想う人への気持ちを熱く表現している。歌詞の内容とそれに付けられた音楽表現（メロディ）が絶妙であり、生徒の音楽的な感受の

深まりと歌唱表現の高まりが期待できると考える。

(3) このように生徒の実態と本題材の教材のもつ魅力とを踏まえた上で、以下のように展開する。学習形態は、教師による意図的に編成したグループで行う。4～5人ずつの7班を編成する。各グループには、「しっかり歌える生徒」「歌声のボリュームは大きくないが、音楽に高い興味・関心をもっている生徒」「発言を活発に行う生徒」が必ずいるように編成する。

第1次では、導入として既習楽曲である「Santa Lucia」、「Torna Surriento」の何人かの演奏を聴き比べ、演奏者の解釈や思いの違いによって、表現の違いや表現の幅の広さが生まれてくることを感じ取らせる。

2次では、「O sole mio」の教師による範唱を聴かせたのち、ナポリ語の読み練習、リズム唱、歌唱へと展開していく。楽譜は、強弱や速度変化を表す記号などがまったく記載されていないものを与え、教師による範唱もまったく強弱や速度の変化をつけずに行う。次に歌詞への思いを深めさせるために、ナポリ語の単語の意味をもとにグループごとに歌詞の日本語訳をつくらせる。ナポリ語の単語の意味は、「『O sole mio』単語辞典」として教師が編集し用意したもので調べさせる。次にグループごとの日本語訳を伝え合わせながら、学級全体で一つの日本語訳を完成させる。そして、統一した日本語訳をもとにグループごとに音楽表現を工夫させる。その際、「強弱」にポイントを絞って考えさせ、さらに歌詞やメロディから感じる表現の「ニュアンス」を簡単な言葉（例えば、「やさしく」「熱く」「輝かしく」など）で表現させる。特に楽曲の後半部分にウエイトを置いて行わせる。グループ内においてお互いに思いや意図をしっかり伝え合えるように言葉かけをし、さらに生徒同士の発言をつなげ、思いを深めさせるような教師の言葉かけを大切にしたい。グループの意見としてまとまった表現（強弱、ニュアンス）は、グループごとの楽譜に書き加えさせる。

本時は、本題材の2次第4時である。歌唱のための基礎練習を行ったのち、原詩で歌唱させる。この時は、表現をつけずにしっかりした声と発音で歌えることをねらいとする。次に前時に作成したグループごとの楽譜をもとに、楽曲の後半部分の表現について特に特徴のある数グループに発表させる。教師は、言葉で表現される音楽表現をその場で歌ってみせたり、生徒に歌わせたりしながら、ただ言葉だけの伝え合いにならないようにする。そして、発表を聞いたのち「これいいなあ」「歌詞の思いが伝わるのはこっちの表現かもしれない」などの生徒の意見・考え・受け止めを拾い、学級全体でやりとりしながら統一した表現を求めていく。よく発言する生徒だけの意見にならないように留意する。教師は、「強弱」「ニュアンス」のポイントごとに問いかけていくが、特に後半最初の「Ma n'atu sole」の歌詞の思いの強さ、中間の「o sole o sole mio」部分のメロディの音の変化に気づかせ、その部分について深く追求していきたい。統一した表現は、全員が視覚的にとらえることができるように拡大楽譜に記号や言葉で教師が書き込んでいく。ここでも言葉だけの伝え合いにならないように留意する。完成した楽譜をもとに歌唱表現へとつなげていく。歌唱表現では、時には教師も一緒に声を出しながら表現を引き出させるようにしたい。

今題材では、個→グループ→学級全体という流れでの学び合いを進めていくが、できれば最後に、学級全体の学び合いを個人のさらなる思考力・判断力・表現力に上昇スパイラルさせていくねらいで、数人に独唱をさせたい。学級全体での統一した表現をもとに、さらに「もっと自分はどう表現したい」「もっとこう歌ってみたい」という個人の思いを発言させ、歌わせたい。

### 3 展開計画（全4時間 本時4/4）

次	主な活動	時	具体的な学習・活動（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	演奏を聴き比べ、表現の違いや表現の幅広さを感じ取ろう。	1	・「Santa Lucia」（ナポリ民謡）「Torna Surriento」（G.B.デ・クルティス作詞／E.デ・クルティス作曲）の何人かの演奏を聴き比べ、表現の違いや表現の幅広さを感じ取る。
2	歌詞の意味を探り、その意味や音に対する感じ方を伝え合いながら表現を工夫しよう。	2	・「O sole mio」の範唱を聴く。 ・ナポリ語のリズム唱と歌詞唱をする。 ・ナポリ語の単語の意味をもとに歌詞の日本語訳をつくる。（個→グループ）
		3	・ナポリ語での歌詞唱をする。 ◇グループごとの日本語訳を伝え合い、学級全体で一つの日本語訳をつくる。（グループ→学級全体） ・つくった日本語訳やメロディ（音）から感じることをもとに表現を工夫する。（個→グループ）
		④	◇グループごとの思いや表現の工夫を伝え合いながら、学級全体で一つの音楽表現を高めていく。（グループ→学級全体） ・統一した表現をもとに歌唱する。 ・数人が独唱をする。（学級全体→個）

### 4 学び合いにおける思考力・判断力・表現力の評価

次	時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
2	3	◇グループごとの日本語訳を伝え合い、学級全体で一つの日本語訳をつくる。	歌詞の意味を探り、思いが伝わる日本語訳について、自分の考えをもっている。	ワークシート 発言	歌詞の意味を深く探り、思いが伝わる日本語を選んで伝えることができる。	歌詞の意味を探り、思いが伝わる日本語を選んで伝えることができる。	思いが伝わる日本語訳について、自分の考えをもつことができない。
	④	◇グループごとの思いや表現の工夫を伝え合いながら、学級全体で一つの音楽表現を求めていく。	歌詞の意味やメロディ（音）を感じ取り、どのように歌うかについて、自分の考えをもっている。	発言 演奏	強弱や速度、歌詞やメロディ（音）のニュアンスについて、自分の考えをもち、言葉や歌声で伝えることができる。	強弱や速度について、自分の考えをもち、言葉で伝えることができる。	強弱や速度について、自分の考えをもつことができない。

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

思いや意図を伝え合いながら強弱やニュアンスを工夫し、歌唱表現を高めることができる。

### (2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価(◎は学び合いのためのはたらきかけ)
1. 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学級全体で統一した日本語訳と各グループの表現の工夫を確認し、学習課題を共通してもてるようにする。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     歌詞の意味やメロディ（音）を感じ取り、表現を工夫しよう                 </div>	
2. 歌唱のための基礎練習（体ほぐし・発声）と「O sole mio」の復習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌う雰囲気を高めるような声かけをする。</li> <li>・表現はつけさせず、しっかりとした声と発音で歌うよう指示する。</li> </ul>
3. 後半部分の表現について数グループ発表する。	◎言葉で表現される音楽表現をその場で歌ってみせたり、生徒に歌わせたりしながら、言葉だけの伝え合いにならないようにする。
4. 後半部分について学級全体での表現をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「強弱」「ニュアンス」のポイントごとに問いかける。</li> <li>◎後半最初の「Ma n'atu sole」の歌詞の思いの強さ、中間の「o sole o sole mio」部分のメロディの音の変化に気づかせる。</li> <li>・自分で考えたものと比較するようにながす。</li> <li>・言葉だけのやりとりにならないように留意する。</li> <li>・拡大楽譜に記号や言葉を書き込み、視覚的にとらえやすいようにする。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>評価の観点（音楽表現の創意工夫）</p> <p>歌詞の意味やメロディ（音）を感じ取り、どのように歌うかについて自分の考えをもっている。</p> <p><b>【評価方法：観察・つぶやき・歌唱表現】</b></p> <p><b>支援</b></p> <p>違う和音をピアノで弾き、その違いを感じられるようにする。</p> </div>	
5. 統一した表現をもとに学級全体で歌う。	
6. 数人が独唱する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強弱の変化などがしっかり歌唱表現できるようピアノ伴奏もそれに付随して弾く。</li> </ul>
7. ふりかえりをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どういう点を表現したいか、また聴いてほしいか問いかけたのち歌わせる。</li> <li>・学級全体で思いを伝え合うことで、自分の感じ取りが深まり、表現が工夫できたか。</li> </ul>